富山県文化振興財団
埋蔵文化財発掘調査報告第29集

北陸新幹線関係

埋蔵文化財包蔵地調査報告(5)

鍋田地区埋蔵文化財包蔵地
飯野小百苅遺跡
ＨＳ－06埋蔵文化財包蔵地
水橋入部遺跡
ＨＳ－09埋蔵文化財包蔵地

2005年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

北陸新幹線は、現在工事が進められています。

当埋蔵文化財調査事務所では、北陸新幹線建設計画に伴い、平成８年度から日本鉄道建設公団（現、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の委託を受け、新幹線建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地について、その範囲等の確認調査を実施しています。今年度は、富山市内の４ヶ所と魚津市内の１カ所の包蔵地確認調査を実施しました。

本書は、富山市鍋田地区、飯野小百苅遺跡、ＨＳ－06遺跡、水橋入部遺跡、魚津市ＨＳ－09遺跡における遺跡の範囲や時代、遺構と遺物の遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。この調査の成果が今後の発掘調査と研究の一助になれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたり格別のご協力とご配慮をいただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成17年３月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長　桃野真晃

例　　言

1　本書は平成16年度に富山市鍋田地区、飯野小百苅遺跡、ＨＳ－06遺跡、水橋入部遺跡、魚津市ＨＳ－09遺跡で実施した埋蔵文化財包蔵地の確認調査報告書である。

2　調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（鉄道運輸機構）から委託を受けて実施した。

3　調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施した。調査員は次の通りである。
調査第二課課長　宮田　進一、同主任　伊藤　潔、森　　隆、同文化財保護主事　町田　賢一

4　本書の編集・執筆は森が担当・実施した。

5　出土遺物及び記録資料は、埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

目　　次

序

例言

目次

Ⅰ　位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅲ　調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　1　富山市鍋田地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　2　富山市飯野小百苅遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　3　富山市ＨＳ－06遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

　4　富山市水橋入部遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

　5　魚津市ＨＳ－09遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅳ　小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

引用・参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

図面

写真

報告書抄録

Ⅰ　位置と環境

本年度包蔵地確認調査を行ったのは、富山市内に所在する鍋田地区、飯野小百苅遺跡、HS－06遺跡、水橋入部遺跡、魚津市HS－09遺跡の５箇所である。これらの各調査地のうち富山市鍋田地区、飯野小百苅遺跡、HS－06遺跡は、神通川と常願寺川によって形成された氾濫原上の標高10ｍ前後の低地上に立地する。海岸線からは約４～６㎞ほど離れている。付近では縄文時代晩期には遺跡が出現し、弥生時代中期～古墳時代前期に遺跡数が増加、以後奈良時代から戦国時代にかけて遺跡が継続的に営まれている。とくに飯野小百苅遺跡やHS－06遺跡の周辺では、飯野新屋遺跡、宮町遺跡、小西北遺跡など弥生～古墳時代の集落遺跡が知られ、またちょうちょう塚古墳は出現期の在地首長の古墳と考えられている。奈良時代では墨書人面土器を出した豊田大塚遺跡があり、戦国期では豊田城をはじめとする城館、居館遺跡もみられる。水橋入部遺跡は常願寺川右岸に接する標高12ｍ前後の低地に立地する。付近から白岩川左岸にかけては遺跡の密集地帯で、水橋金広・中馬場遺跡（縄文・古墳・古代～近世）、若王子古墳、宮塚古墳、奈良・平安時代の官衙関連遺跡である水橋荒町・辻ヶ堂遺跡などが所在する。一方魚津市HS－09遺跡は、市域北東部の布施川によって形成された谷平野の中央、標高24ｍ前後の氾濫原上に立地する。縄文時代中期の天神山遺跡・天神山城は、ちょうど本遺跡の南側に隣接した丘陵上に所在する。

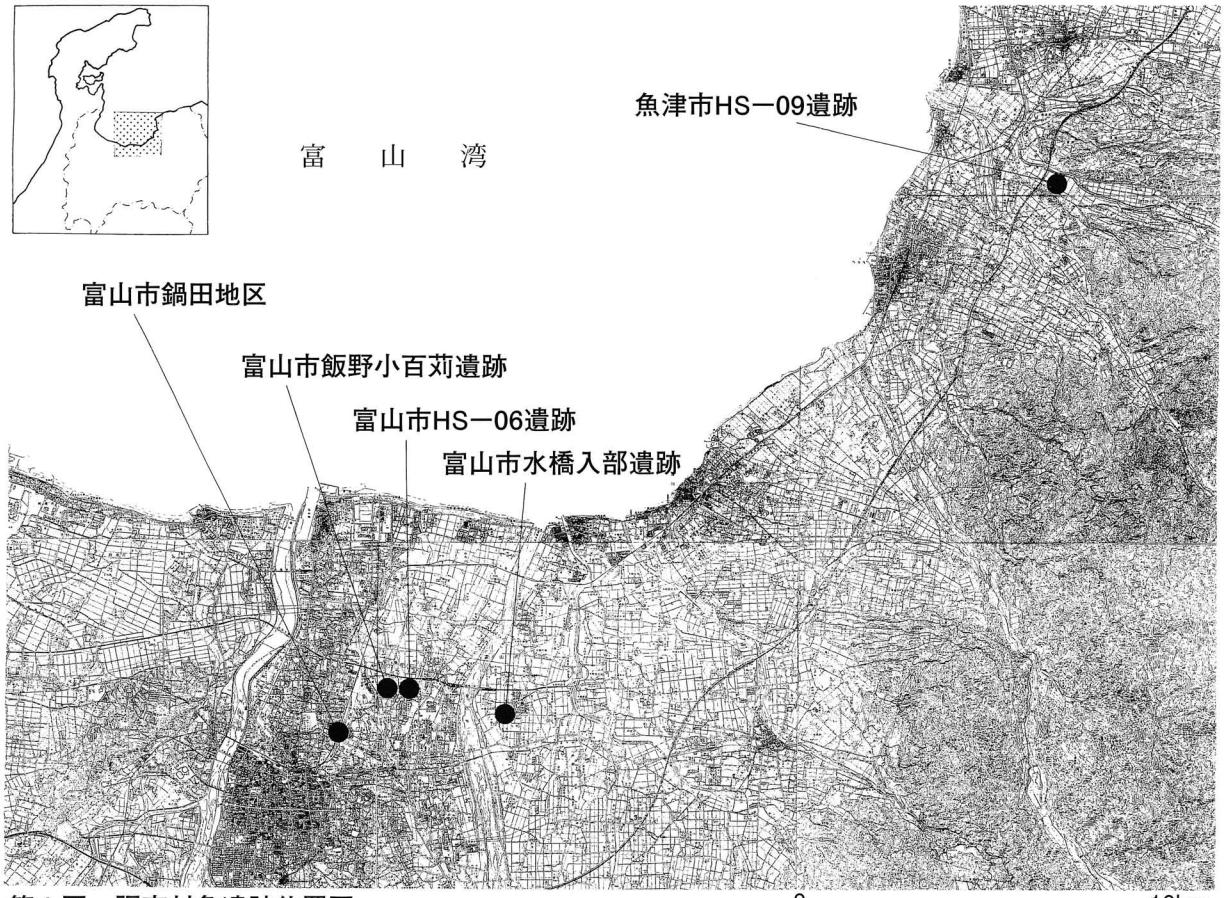
Ⅱ　調査の経緯

昭和60年、北陸新幹線ルートが発表され、日本鉄道公団（現、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）の依頼をうけて、昭和60年・平成７・14年に富山県教育委員会文化課（現、文化財課）と富山県文化財センターによって建設予定地内の分布踏査が実施された。それにより周知の遺跡を含めて県東部に19箇所、県西部に11箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認された。北陸新幹線建設に先立ち用地内の埋蔵文化財包蔵地の確認調査の要望が寄せられ、日本鉄道公団と県文化財課の協議の結果、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所に調査を依頼することになった。これを受けて、平成８年度には小矢部市下川原遺跡の調査を実施した。平成11年度以降は、県東部から包蔵地確認調査を順次実施しており、平成13年度に新黒部・富山間の工事認可が降りるとともに、工事着工の急がれる新黒部以東においては柳田遺跡、下山新東遺跡、若栗中村遺跡、舌山遺跡などの発掘調査も実施している。

本年度埋蔵文化財包蔵地調査を実施したのは、富山市鍋田地区、飯野小百苅遺跡、HS-06遺跡、水橋入部遺跡、魚津市HS-09遺跡の２市５カ所の調査地である。以下に平成16年度に実施した包蔵地確認調査の概要を記す。

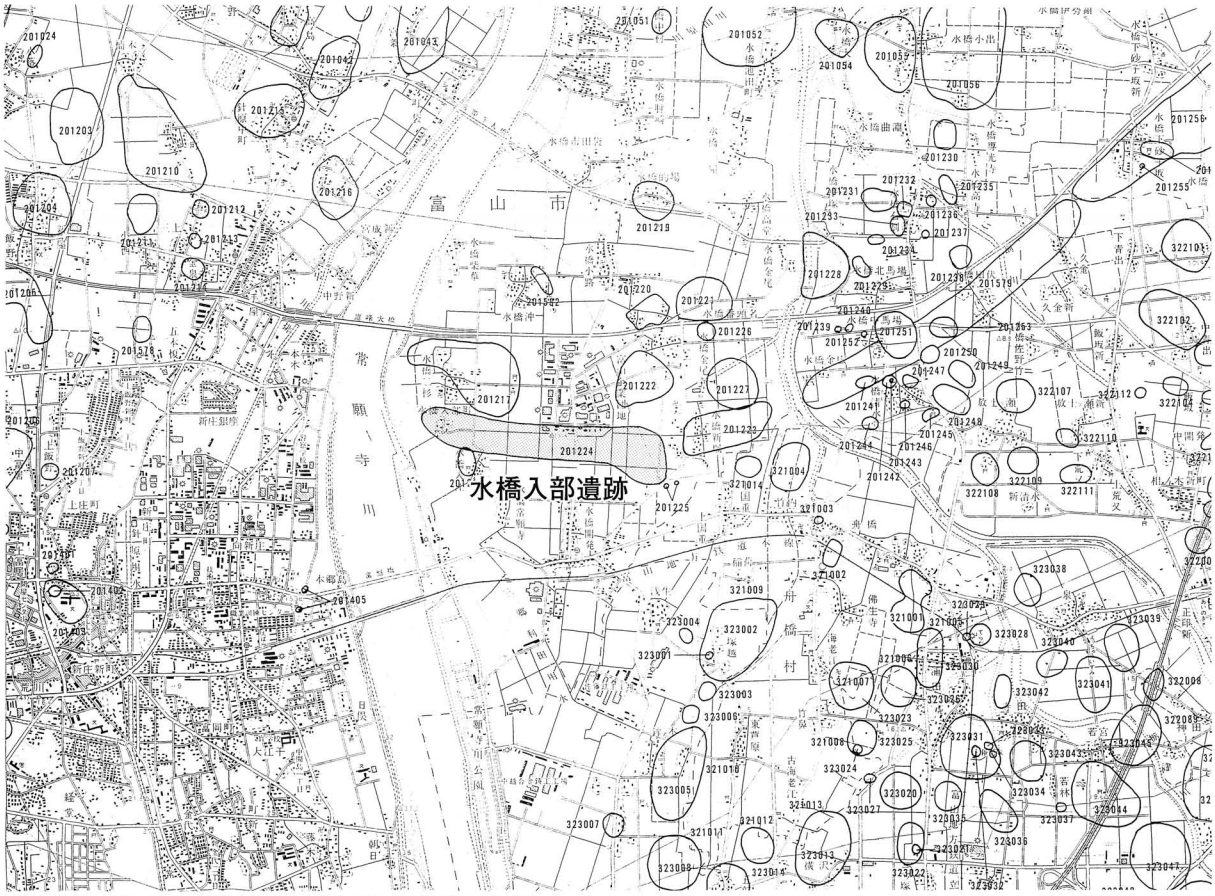
遺跡名	調査期間（実働日数）	対象面積	掘削面積	遺跡の有無
富山市鍋田地区	H16.11.８～11.10（3日）	26,000㎡	450㎡	無
飯野小百苅遺跡	H16.11.15～11.25日（8日）	1,800㎡	56㎡	無
HS-06遺跡	H16.11.15～11.20（4日）	2,800㎡	66㎡	無
水橋入部遺跡	H16.11.24～12.3（8日）	13,400㎡	706㎡	一部古代（面積未定）
魚津市HS-09遺跡	H16.12.８～12.10（5日）	4,800㎡	180㎡	無

第１表　調査結果一覧

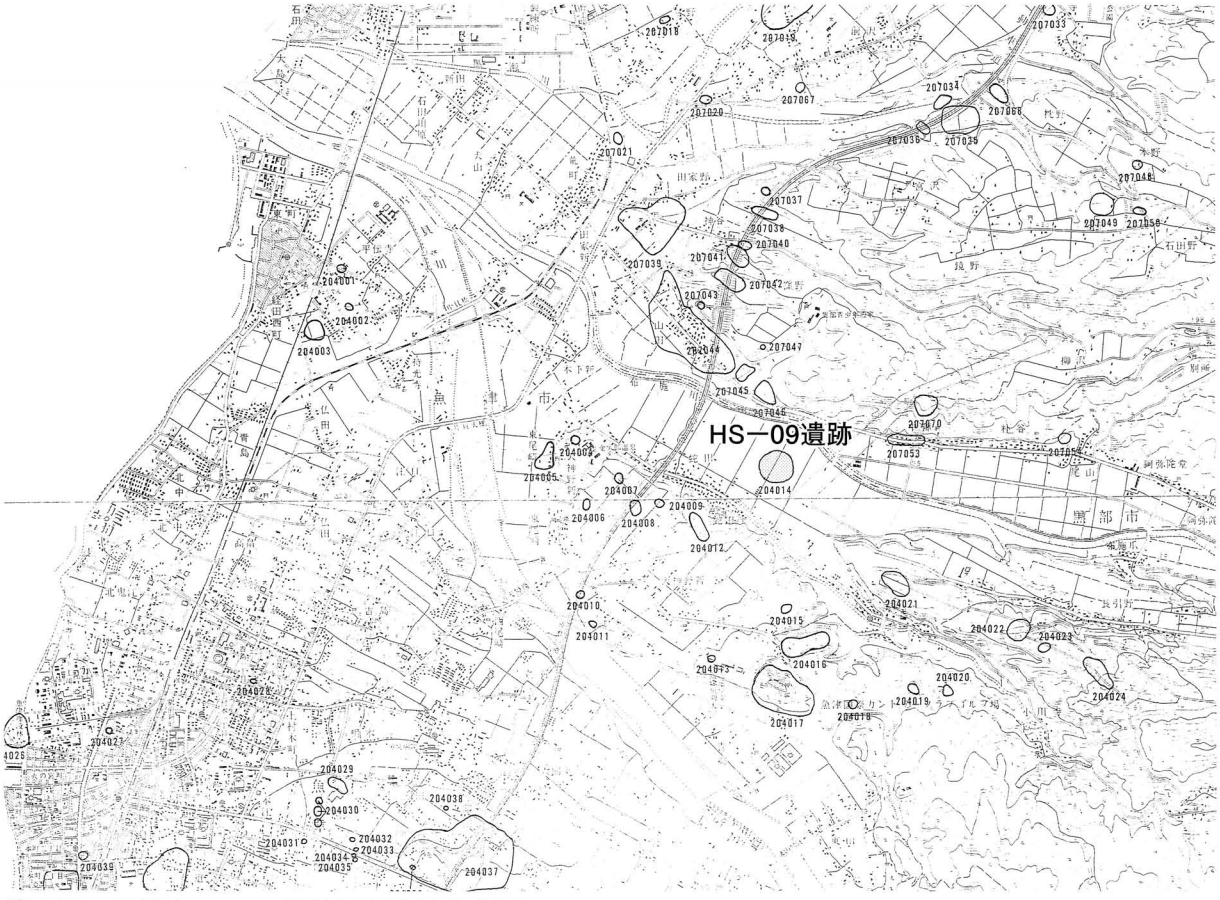


第１図　調査対象遺跡位置図

第２図　富山市鍋田地区・飯野小百苅遺跡・HS－06遺跡周辺遺跡分布図



第３図　富山市水橋入部遺跡周辺遺跡分布図



第４図　魚津市HS−09遺跡周辺遺跡分布図

Ⅲ　調査の結果

1．富山市鍋田地区（JR富山操作場内）

(1)調査方法

幅1.8m、長さ50mの試掘溝（トレンチ・略号Ｔ）を5カ所設定した。表土及び遺構検出面になるとみられる層まで重機（バックホー）により掘削をおこない、遺構・遺物の有無を確認した。また部分的に下層の状況確認のため深掘りをおこなった。調査面積は450㎡である。

(2)調査結果

調査対象地は現JR西日本の富山操作場内にあり、造成済みの雑種地となっている。このため調査対象地の全域で造成時の盛土が顕著にみられ、盛土の厚いところでは約１ｍもの深さに及んだ。各トレンチの基本層序はおおむね共通しており、上からⅠ層：造成時の盛土層、Ⅱ層：旧耕作土層ないしは旧地表面を示す植物の腐植土層、その後若干の間層を挟んで、以下明灰色シルト層と黒褐色粘質土層が互層で堆積している（現地表から約1.5ｍまで部分的に掘削・確認）。とくに黒褐色粘質土層中には腐植した植物を多く含む場合が多く、また全トレンチで地下水位の低いことに起因する湧水が顕著にみられる。かつての低湿地状の地勢と植生がうかがえる。遺構・遺物はまったく認められない。

2．富山市飯野小百苅遺跡

(1)調査方法

県道富山環状線を挟んで西側をT1地区、東側をT2地区とした。当初バックホウによる機械掘削を計画したが、その後両地区とも現況水田がかなり低湿な状態で、重量のある機械の進入が困難であることが判明し、急遽作業員による人力掘削に変更した。このため当初計画の細長い機械掘りトレンチ２本を、２ｍ×２ｍ四方の方形トレンチ多数に組み替えした。その結果T1地区ではT1-1～T1-9の９カ所、T2地区ではT2-1～T2-6までの６カ所、計15トレンチを新たに設定しなおした。なおT1-1については現況においても耕作放棄されるほど水切れが悪く、人力掘削が困難なため、最終的に掘削を取りやめにした。従って実際の掘削トレンチ数は14カ所となる。調査面積は総計で56㎡となる。

(2)調査結果

調査対象地はT1・T2地区とも現況は水田である。各トレンチはT1・T2地区とも基本層序はおおむね共通している。上からⅠ層：現耕作土層、Ⅱ層：床土、Ⅲ層：旧耕作土層、Ⅳ層：旧床土、Ⅴ層：黒褐色粘質土層となる。このⅤ層は低湿地起源の植物の腐植土層と考えられ、平均で0.2ｍ～0.6ｍの厚さの堆積が認められた。とくにT1地区での堆積が厚く、T1-2～T1-4トレンチにおいては腐植した植物や樹木の根が顕著にみられた。このⅤ層の下層にはⅥ層：明灰色シルト質土層が概ね全トレンチで確認された。同時に調査地の全域で地下水位の低いことに起因する湧水が顕著にみられ、付近にかつて広範囲に低湿地が広がっていた状況が窺えた。なお調査時の検出遺構としては唯一T2-5トレンチの木樋暗渠があるが、切り込み面は上層現耕作土層直下であり、時期不詳ながら近世以降の時期の所産である可能性が高い。他トレンチではいずれも遺構・遺物は確認できなった。

3．富山市ＨＳ－06遺跡

(1)調査方法

飯野小百苅遺跡と同様調査対象地は低湿な水田地内にある。従って水田内に直接機械が進入することが困難な状況にあったが、隣接する舗装された農道側からの機械掘削は可能で、このため３ｍ×２ｍ幅の長方形のトレンチを11カ所（T1～T11）設定し、トレンチの両脇に掘削土を仮置きする方法で機械掘削を行った。調査面積は総計66㎡である。

(2)調査結果

各トレンチの基本層序はおおむね共通している。上からⅠ層：現耕作土層、Ⅱ層：床土、Ⅲ層：旧耕作土層、Ⅳ層：旧床土となり、現地表から0.4～0.6ｍで　Ⅴ層：黒褐色粘質土層　Ⅵ層：明灰色シルト質土層となり、以下この両土層が交互に互層となって堆積している。Ⅴ層は低湿地起源の植物の腐植土層と考えられる。同時に調査地の全域で地下水位の低いことに起因する湧水が顕著にみられ、飯野小百苅遺跡と同様に、付近はかつて低湿地であったものと考えられる。遺構・遺物なし。

4．富山市水橋入部遺跡

(1)調査方法

機械掘りを前提に、幅1.8m、長さ20～80mの試掘溝（T1～T8）を８カ所設定した。表土及び遺構検出面になるとみられる層までバックホーにより掘削をおこない、遺構・遺物の有無を確認した。また部分的に下層の状況確認のため深掘りをおこなった。調査面積は総計で706㎡となる。

(2)調査結果

調査対象地の現況は水田である。調査対象地は東西700ｍの長さに及ぶが、T1トレンチを除く各トレンチの基本層序、とくに下層部分についてはおおむね共通する様相を示す。上からⅠ層：現耕作土層、Ⅱ層：床土、Ⅲ層：旧耕作土層、Ⅳ層：旧床土と続き、Ⅴ層：黒褐色粘質土層、Ⅵ層：明灰色シルト質土層、以下この両層が互層に堆積する。さらに現地表から約1.6～２ｍ下層において黄茶色粘質土層がみられるが、この土層は全トレンチの最下層において認められ、付近で広域にみられる基盤土層（地山）と考えられる。なおT1トレンチのみ上層土が耕作土直下で灰色砂層の厚い堆積となるが、約1.4ｍほど掘り下げたところで、前述の明黄褐色粘質土層が認められた。各トレンチはいずれも地下水位の低いことに起因する湧水が顕著にみられ、付近にはかつて広範囲に低湿地が広がっていたものと考えられる。今回の調査ではT3トレンチと調査対象地の東端にあたるT8トレンチで若干の遺構・遺物を検出している。T3トレンチでは上層中に古代・中世の遺物が若干含まれていた他、中層（現地表面から0.4～0.6ｍ）から切り込む数条の溝状遺構を検出している。ただし集落遺構の存在を示す柱穴・井戸等の遺構は確認できなかった。古代・中世の集落遺跡の縁辺にあたるものと考えられる。またT8トレンチでは、東端付近で検出された旧河道内から、ほぼ完形の古代の須恵器が１点出土した。この旧河道はT8トレンチの東端付近で西側の肩のみが部分的に検出され、反対側の東肩は検出されていない。このため正確な規模等は不明である。旧河道内の堆積土は荒い灰色砂層で構成されている。この河道は現地表面から0.4ｍほどの深さで上面が検出される。須恵器の出土より古代に時期の一端を求めることができるが、T8トレンチでは古代の集落遺構はみつかっておらず、T8トレンチの所在する水田より東側、すなわち今回の調査対象地よりもさらに東側の隣接地に古代の集落跡が所在する可能性が高い

5．魚津市ＨＳ－09遺跡

(1)調査方法

幅1.5～２m、長さ40～50mの試掘溝を４カ所（T1～T4）設定した。表土及び遺構検出面になるとみられる層までバックホーにて掘削をおこない、遺構・遺物の有無を確認をした。また部分的に下層の状況確認のため深掘りをおこなった。調査面積は全部で180㎡である。

(2)調査結果

調査対象地の現況は水田である。各トレンチの基本層序はおおむね共通しており、Ⅰ層：現耕作土層、Ⅱ層：床土で、Ⅲ層以下が砂礫層となる。ほとんどのトレンチでは、現耕作土・床土を削除した

段階で砂礫層が直接露出する状況を呈す。この砂礫層は１ｍ以上深掘りした部分でもさらに下層まで続いており、下層において砂層や粘質土層の存在は一切確認できなかった。このことから付近はかつて表土の形成が薄い荒れ地であり、過去のほ場整備時に粘質土の床土を砂礫層の上面に貼り付けて、その上面に耕土を多量に搬入して水田を形成している様相が窺える。遺構・遺物無し。

Ⅳ　小結

以上の調査結果をまとめると、以下のようになる。

(1)富山市鍋田地区

遺構・遺物なし。調査地付近一帯はかつて低湿地であったと考えられる。本調査の必要なし。

(2)富山市飯野小百苅遺跡

遺構・遺物なし。調査地付近一帯はかつて低湿地であったと考えられる。本調査の必要なし。

(3)富山市ＨＳ－06遺跡

遺構・遺物なし。調査地付近一帯はかつて低湿地であったと考えられる。本調査の必要なし。

(4)富山市水橋入部遺跡

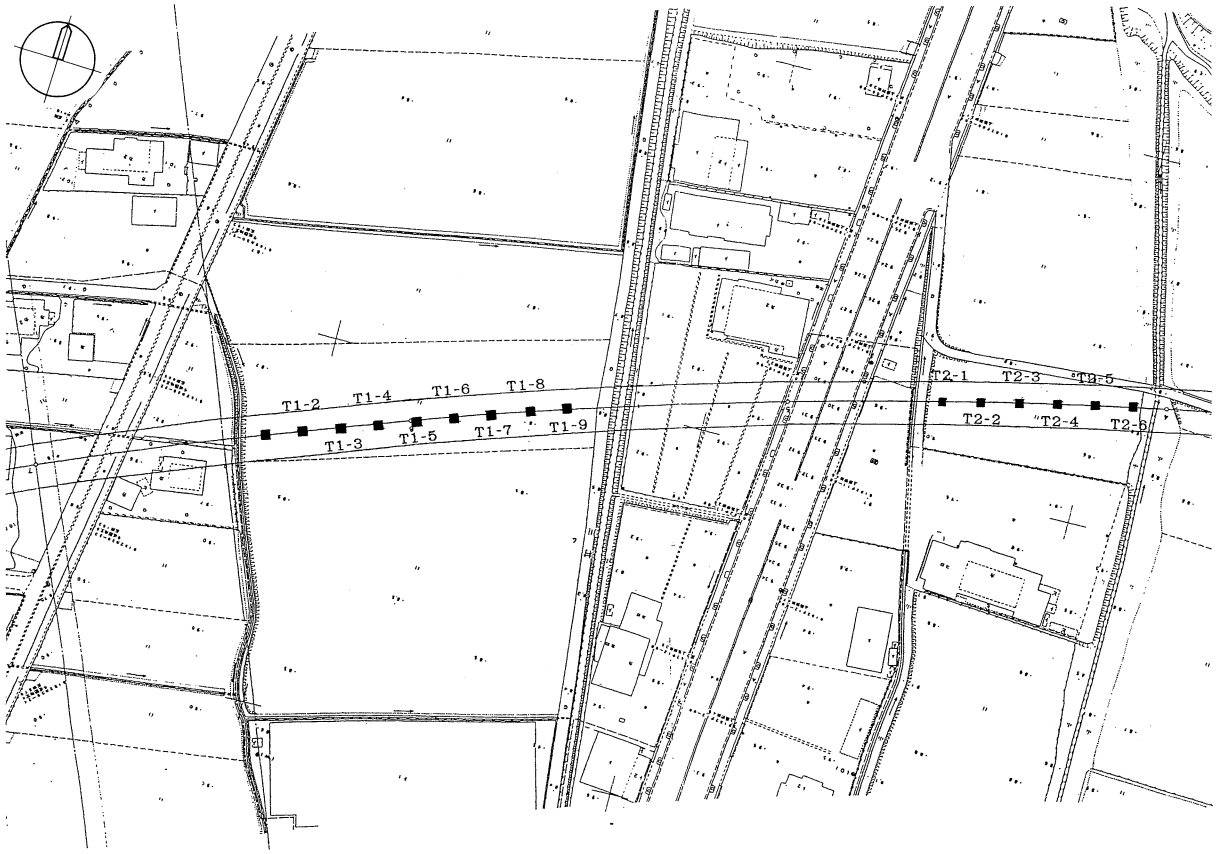
T1・T2・T4～T7については遺構・遺物なし。これらのトレンチ周辺はかつて低湿地であったと考えられる。T3トレンチでは古代・中世の出土遺物と若干の溝状遺構が検出されたが、柱穴や井戸など具体的な集落遺構は認められず、古代・中世集落の縁辺にあたるものと考えられる。従って現状では本調査を実施する根拠に乏しいものと判断する。T8トレンチについては、東端付近で古代の旧河道の一部を検出し、ここより完形の須恵器１点が出土した。ただし古代の集落遺構はT8トレンチの西側では検出されておらず、推定される古代集落はT8トレンチを設定した水田よりさらに東側、つまり今回の試掘調査対象地外の東側に所在する可能性が高い。従って本格調査の要不要については、次年度以降の東側隣接地の試掘調査結果を待つ必要がある。すなわち次年度以降の隣接地の試掘によって、仮に①古代の集落遺構が検出された場合、今回調査した８トレンチの旧河道を西端とする本格調査を、②古代の集落遺構が検出されなかった場合、８トレンチ出土の須恵器は旧河道の上流側からの流れ込みと判断し、本格調査は実施しない、という二つの選択肢が想定できる。いずれにせよ次年度の追加試掘調査の結果を待って判断する必要がある。

(5)魚津市ＨＳ－09遺跡

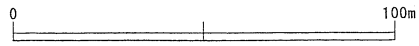
調査の結果、遺構・遺物の検出はなく、本調査の必要はないと判断できる。

(引用・参考文献)

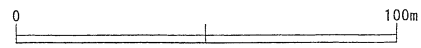
・財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査(1)～(4)』2000～2004
・財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財調査概要　平成13年度～15年度』2002～2004
・財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財調査年報　平成13年度～15年度』2002～2004

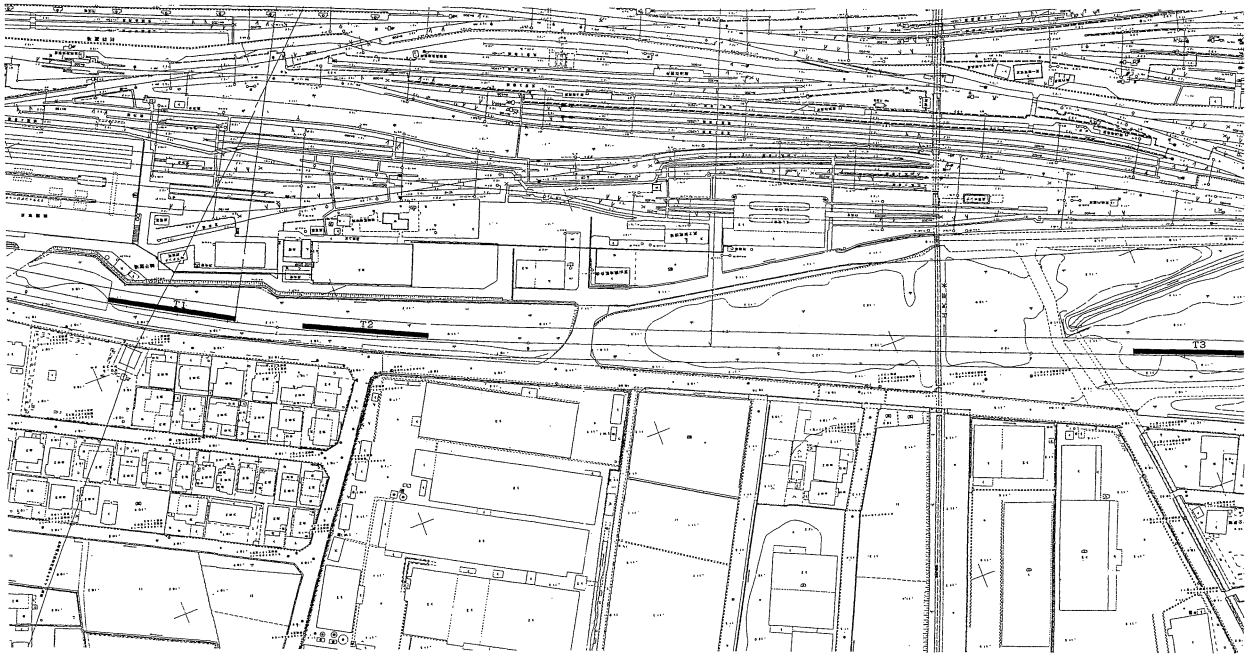


第５図　富山市飯野小百苅遺跡トレンチ配置図



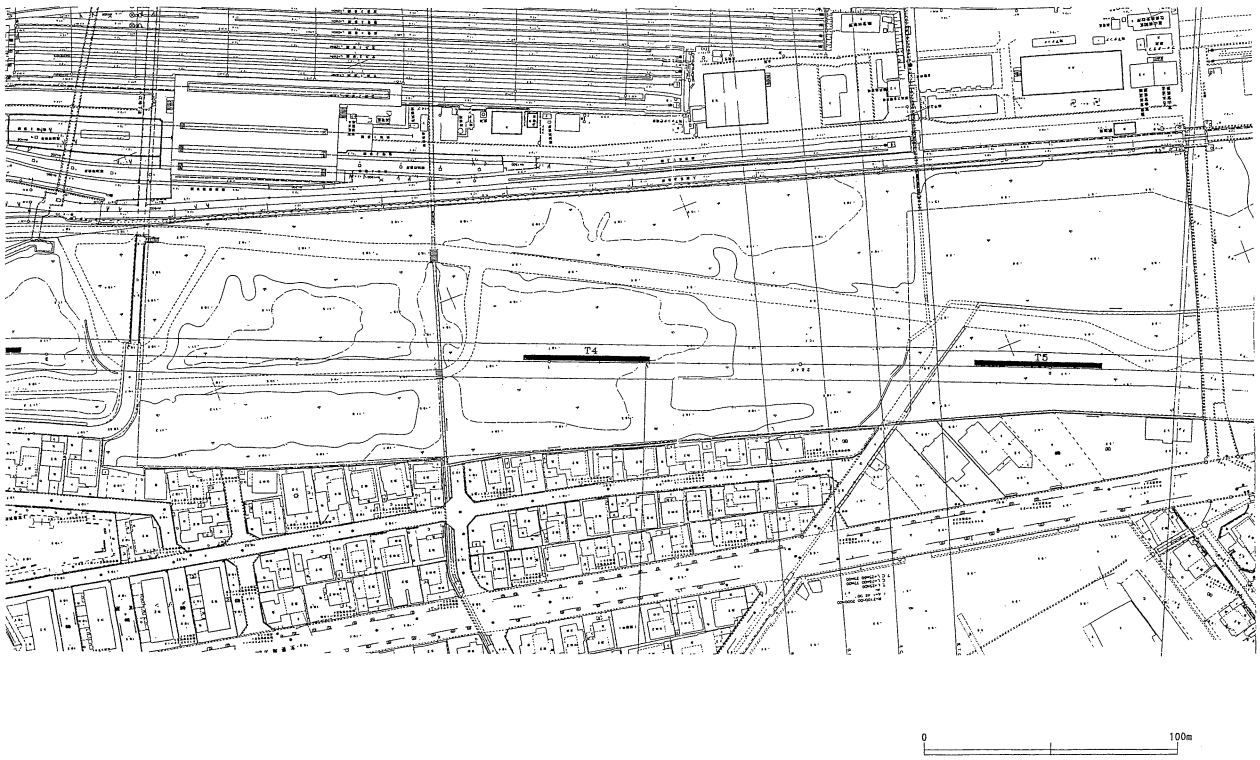
第６図　富山市HS－06遺跡トレンチ配置図

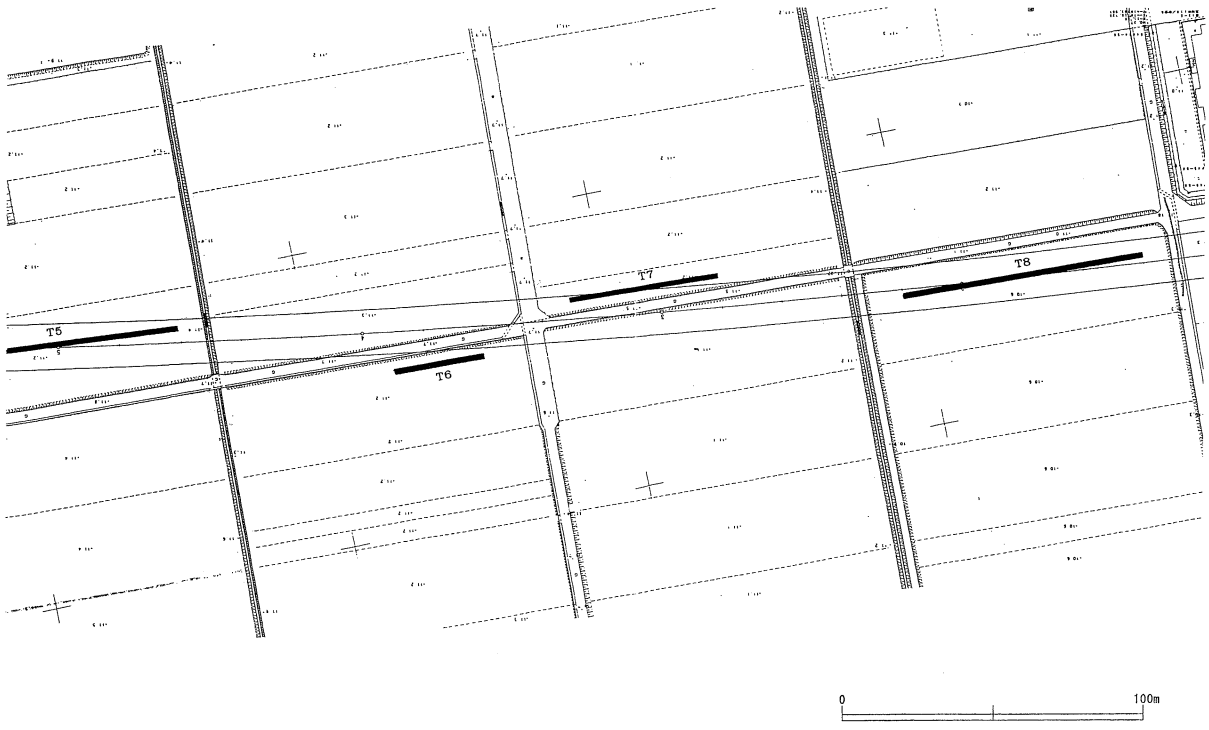


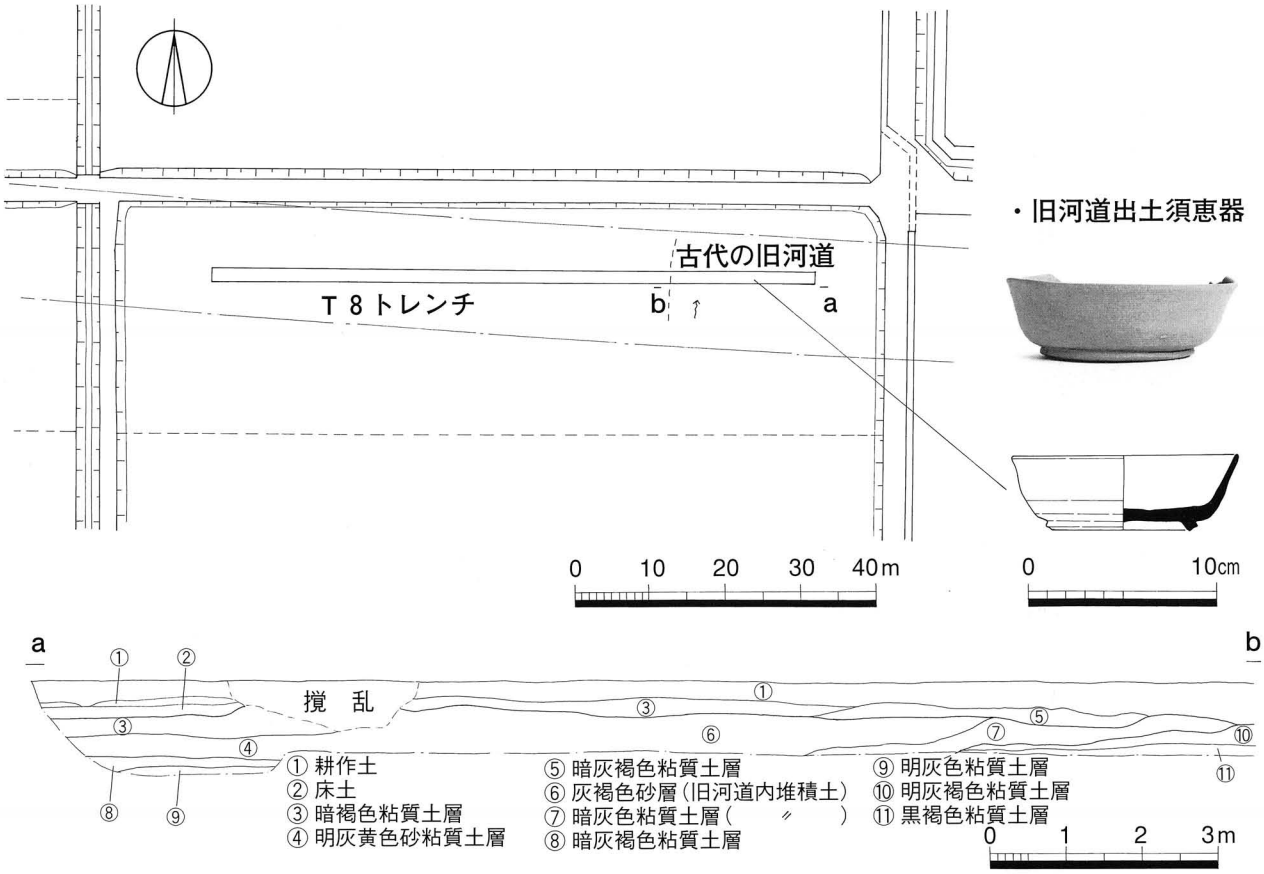


第７図　富山市鍋田地区トレンチ配置図

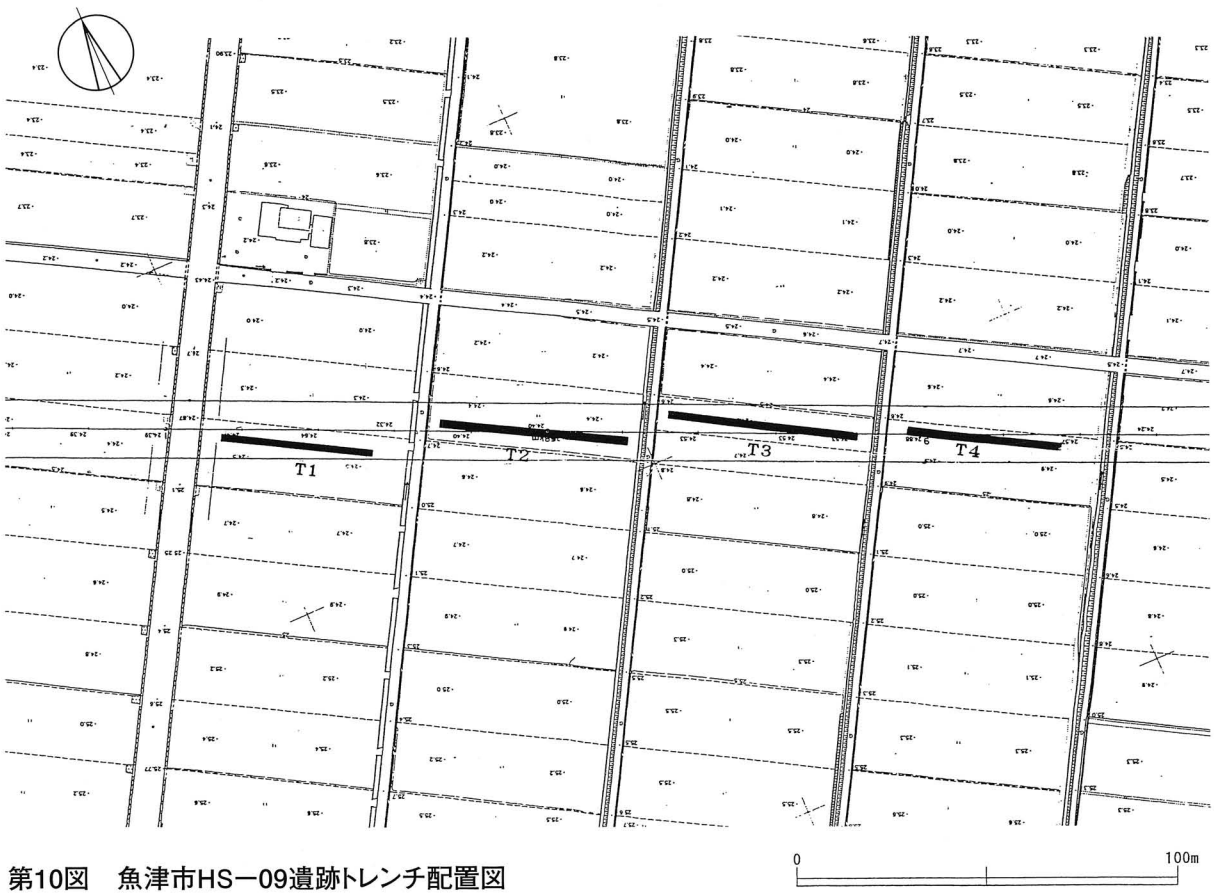
第８図　富山市水橋入部遺跡トレンチ配置図


T4
T5
0
100m


T5
T6
T7
T8
0
100m

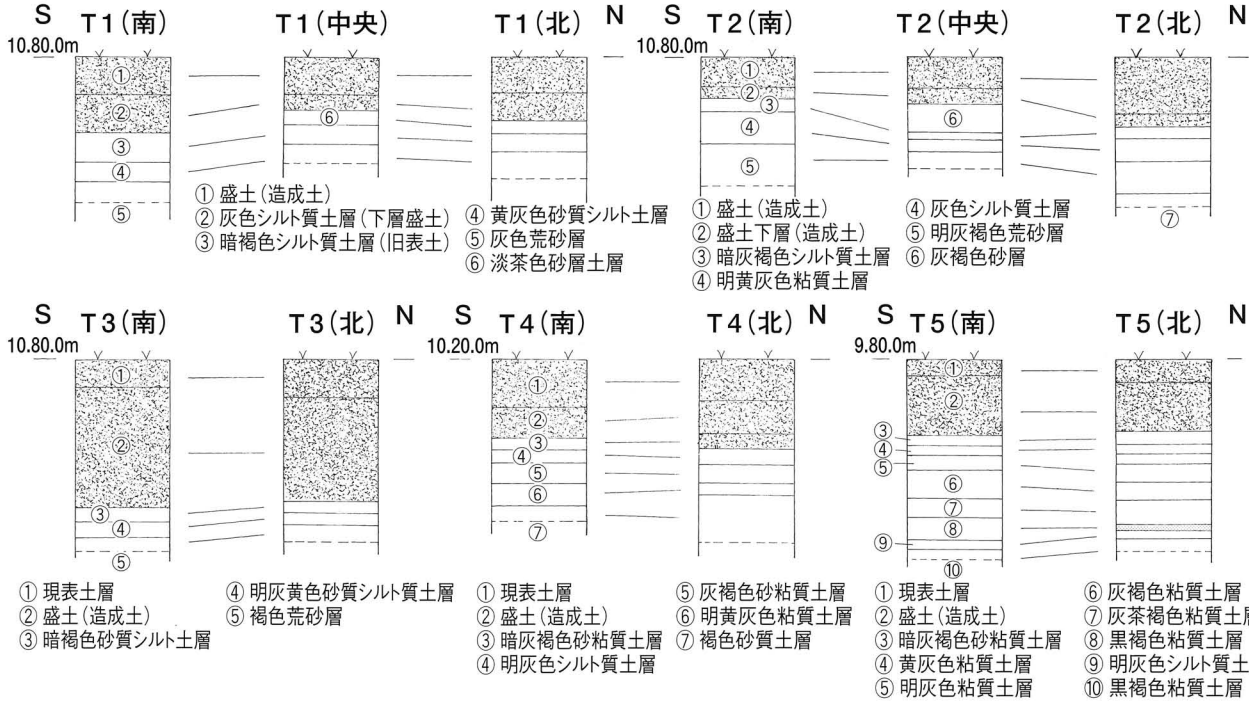


第９図　富山市水橋入部遺跡Ｔ８トレンチ古代旧河道土層断面図・出土遺物実測図

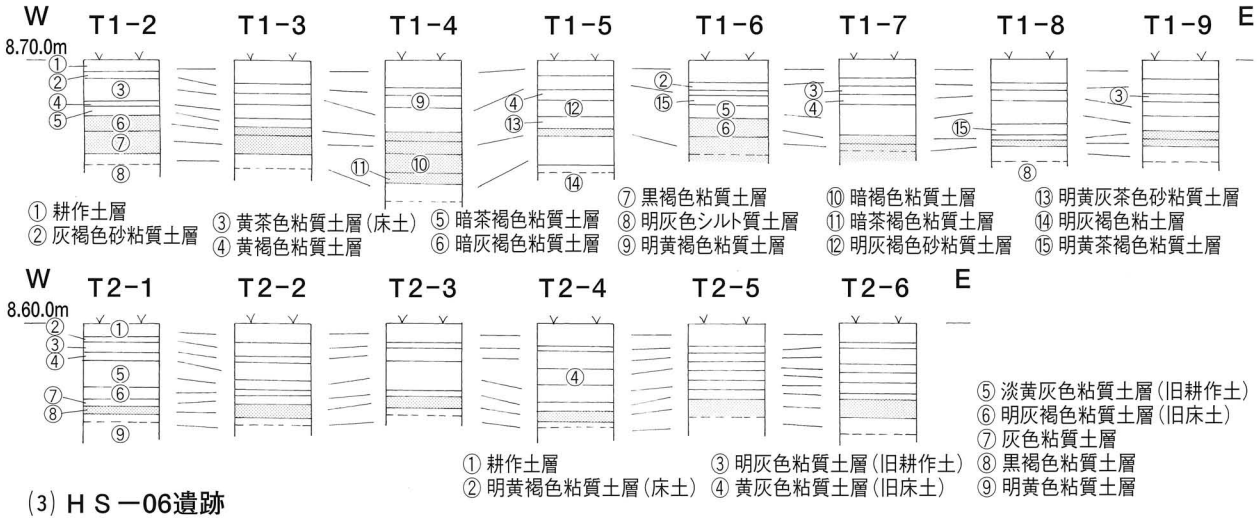


第10図　魚津市HS－09遺跡トレンチ配置図

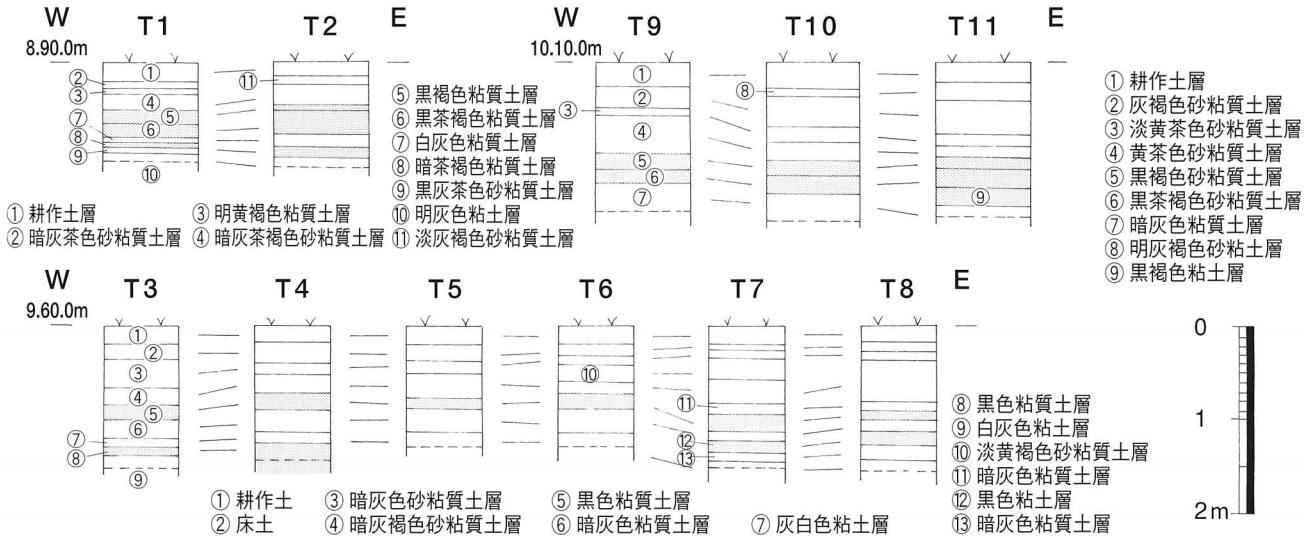
(1) 鍋田地区



(2) 飯野小百苅遺跡

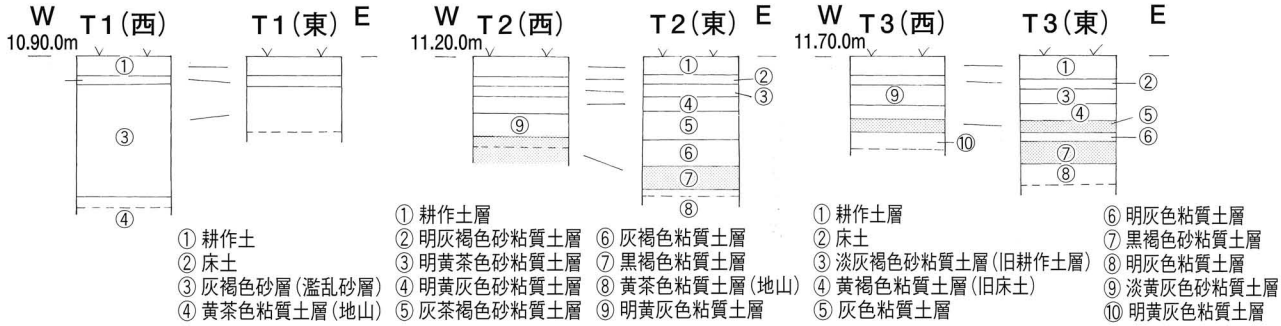


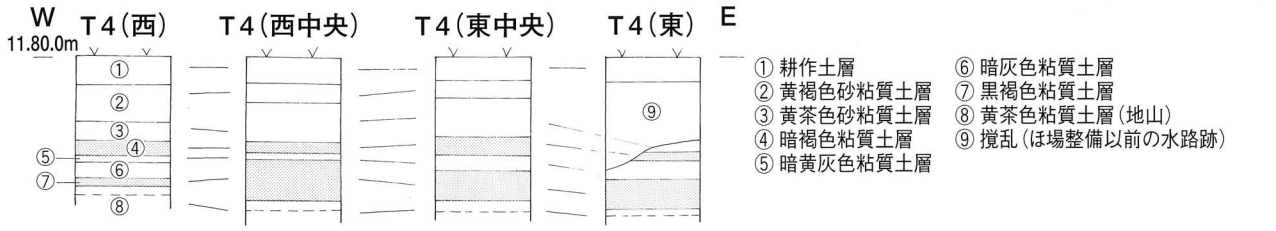
(3) ＨＳ－06遺跡

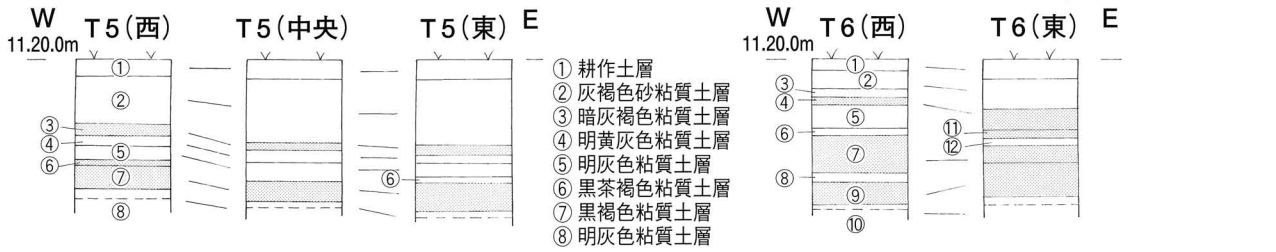


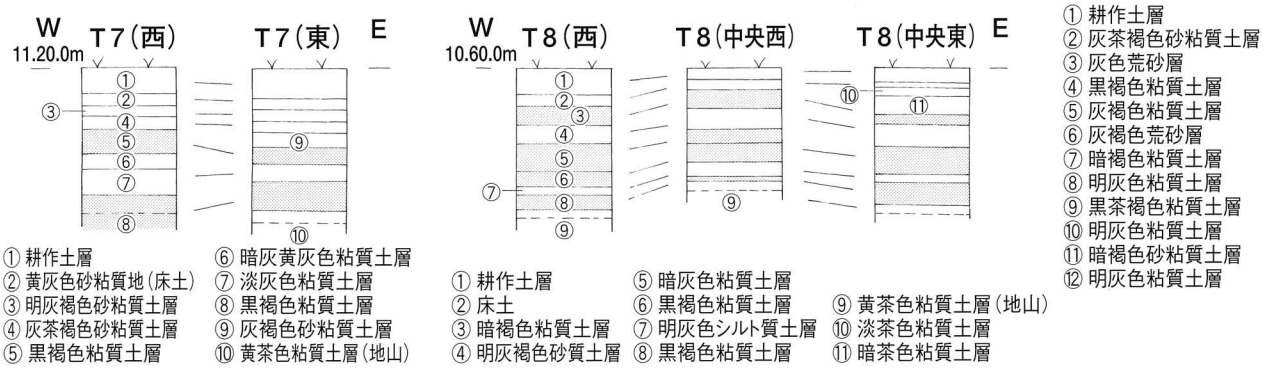
第11図　富山市鍋田地区・飯野小百苅遺跡・HS－06遺跡トレンチ土層断面柱状模式図

(4) 水橋入部遺跡

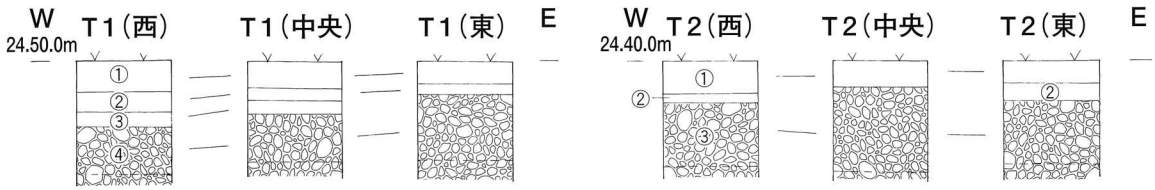


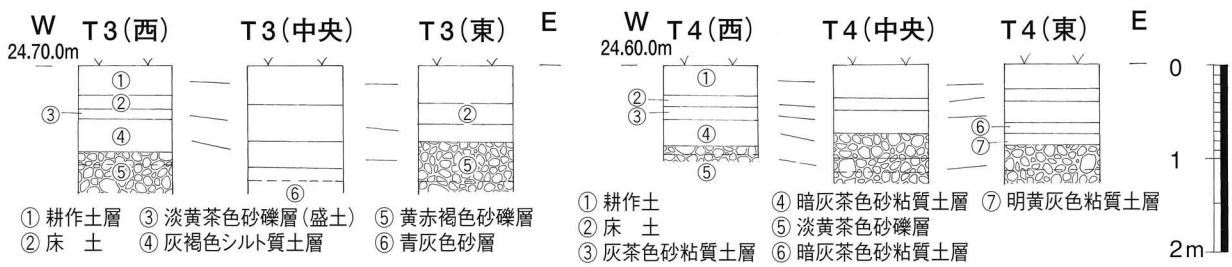






(5) ＨＳ－09遺跡

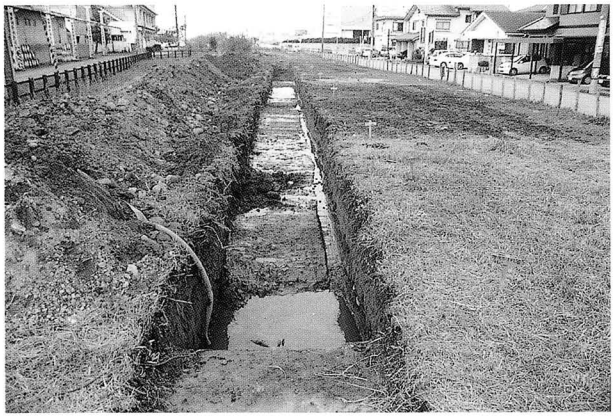




第12図　富山市水橋入部遺跡・魚津市HS－09遺跡トレンチ土層断面柱状模式図

①鍋田地区遠景（西から）

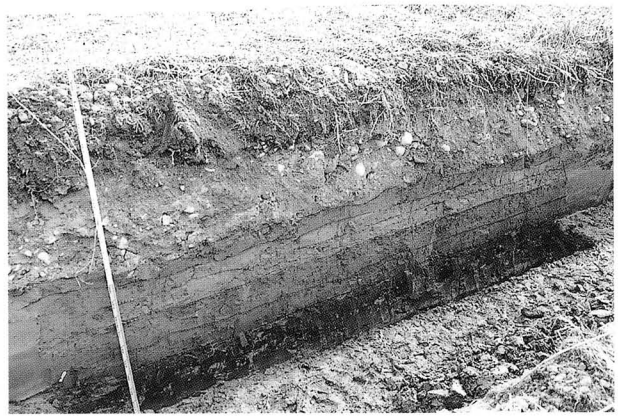
②T1トレンチ掘削状況（西から）



③T1トレンチ全景（西から）

④T1トレンチ西端断面（北西から）

⑤T5トレンチ全景（東から）



⑥T5トレンチ北側断面（北東から）

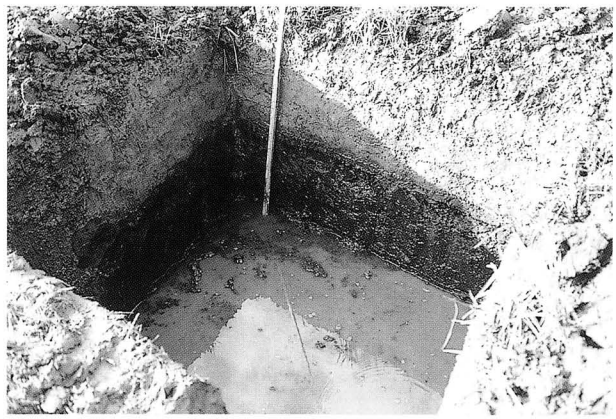
⑦飯野小百苅遺跡遠景（西から）

⑧T1トレンチ掘削状況（西から）

①～⑥：鍋田地区　⑦・⑧飯野小百苅遺跡

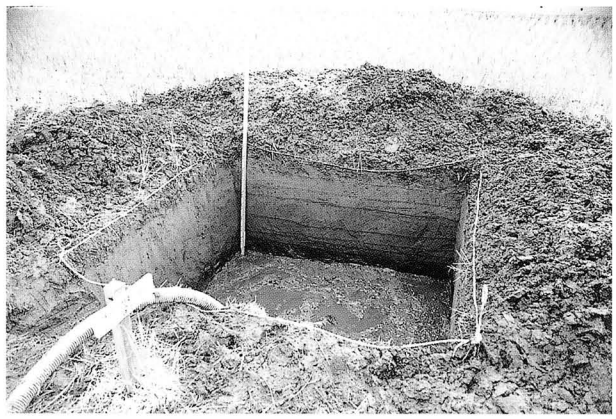
写真２

⑨Ｔ2トレンチ掘削状況（北東から）



⑩Ｔ1－2トレンチ断面（南東から）

⑪Ｔ1－5トレンチ断面（南西から）



⑫Ｔ2－1トレンチ断面（北から）

⑬ＨＳ－06遺跡遠景（南東から）

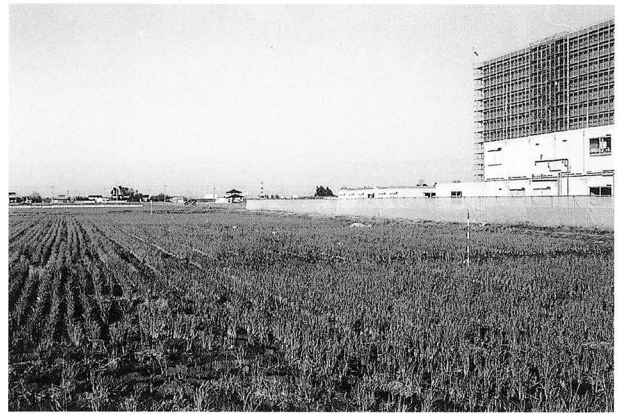
⑭Ｔ1トレンチ掘削状況（南東から）

⑮Ｔ1・2トレンチ掘削状況（西から）

⑯Ｔ12トレンチ断面（南から）

⑨～⑫：飯野小百苅遺跡　⑬～⑯ＨＳ－06遺跡

⑰水橋入部遺跡遠景（西から）

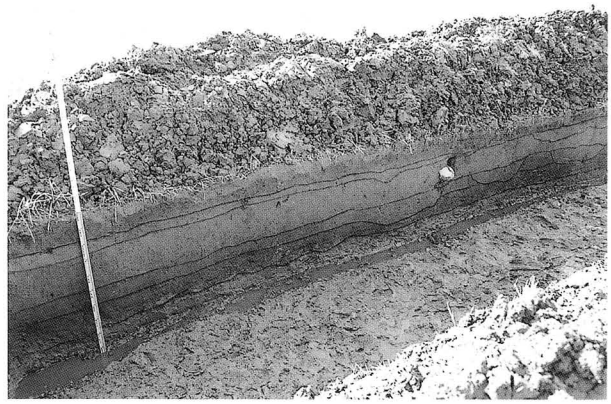


⑱水橋入部遺跡遠景（東から）

⑲T1トレンチ掘削状況（北西から）

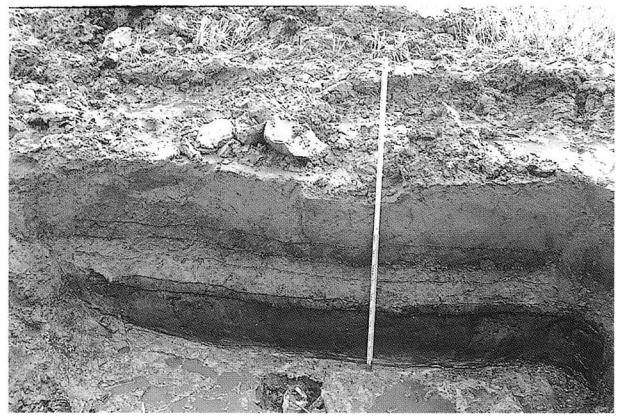
⑳T7トレンチ掘削状況（西から）

㉑T3トレンチ全景（西から）



㉒T3トレンチ断面（北東から）

㉓：T5トレンチ全景（西から）

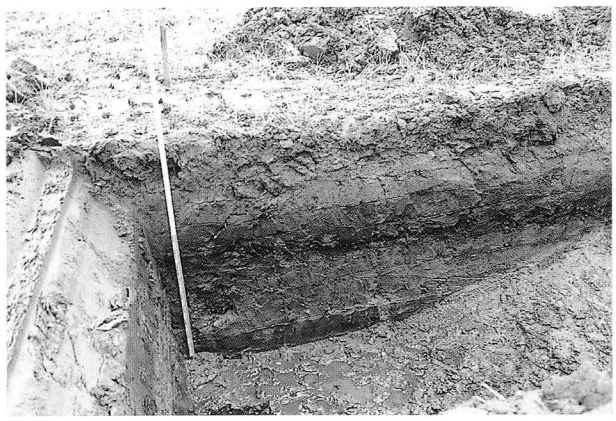


㉔T5トレンチ東端断面（北から）

⑰～㉔：水橋入部遺跡

写真４

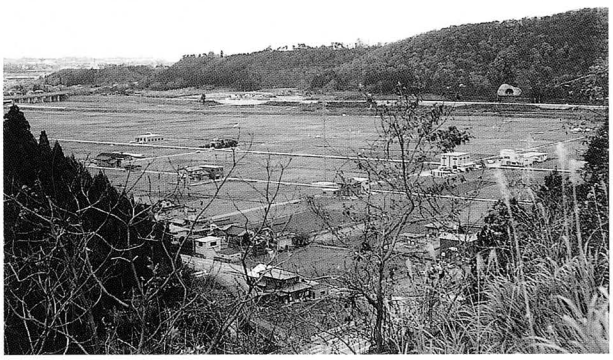
㉕Ｔ7トレンチ全景（西から）



㉖Ｔ7トレンチ西端断面（南から）

㉗Ｔ8トレンチ全景（東から）

㉘Ｔ8トレンチ東側旧河道部分（北西から）



㉙ＨＳ－09遺跡遠景（南西から）

㉚トレンチ掘削状況（Ｔ1トレンチ・東から）

㉛Ｔ1トレンチ全景（西から）

㉜Ｔ1トレンチ東断面（南から）

㉕～㉘：水橋入部遺跡　㉙～㉜：ＨＳ－09遺跡

報告書抄録

ふりがな	ほくりくしんかんせんかんけいまいぞうぶんかざいほうぞうちちょうさほうこく ご
書名	北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（5） －鍋田地区埋蔵文化財包蔵地・飯野小百苅遺跡・HS－06埋蔵文化財包蔵地・水橋入部遺跡・HS－09埋蔵文化財包蔵地－
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第29集
編著者名	森　　隆
編集機関名	財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930－0887　富山県富山市五福4384－1番1号　TEL076－442－4229
発行年月日	西暦2005年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
なべたちく 鍋田地区	とやましなべた 富山市鍋田	16201	—	36° 42′ 21″	137° 14′ 10″	20041108 ～ 20041110	450m²	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
いいのこひゃくかりいせき 飯野小百苅遺跡	とやましいいの 富山市飯野	16201	205	36° 43′ 5″	137° 14′ 97″	20041115 ～ 20041125	56m²	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
えいっちえすぜろろくいせき HS－06	とやましこにし 富山市小西	16201	578	36° 43′ 8″	137° 15′ 26″	20041115 ～ 20041120	66m²	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
みずはしにゅうぶいせき 水橋入部遺跡	とやましみずはしにゅうぶ 富山市水橋入部	16201	602	36° 42′ 46″	137° 16′ 45″	20041124 ～ 20041203	706m²	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査
えいっちえすぜろきゅういせき HS－09	うおづしへびた 魚津市蛇田	16204	111	36° 50′ 19″	137° 27′ 3″	20041204 ～ 20041210	180m²	北陸新幹線建設に伴う包蔵地確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍋田地区	—	—	—	—	本調査を必要としない
飯野小百苅遺跡	—	—	—	—	本調査を必要としない
HS－06	—	—	—	—	本調査を必要としない
水橋入部遺跡	（集落）	古代	旧河道	須恵器	一部調査の可能性有り
HS－09	—	—	—	—	本調査を必要としない

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第29集

北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（5）

鍋田地区埋蔵文化財包蔵地・飯野小百苅遺跡・HS－06埋蔵文化財包蔵地・水橋入部遺跡・HS－09埋蔵文化財包蔵地

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番１号
TEL　076-442-4229

発行日　2005（平成17）年３月29日

印刷　日興印刷株式会社